

寄附者との「絆」を深めるために、大感謝祭を開催

10月24日、25日の両日、横浜市の赤レンガ倉庫で行われた「東京湾大感謝祭」とのタイアップ企画で、平戸市では市外のイベントで初となる「海と山のひらどマルシェin東京湾大感謝祭」を行いました。これは、平戸市が2014年度ふるさと納税の寄附額が日本一になったことを記念して、寄附者と平戸市との「絆」をさらに深めることを目的に開催されました。

当日は、総務大臣時代にふるさと納税制度を発案した菅官房長官も会場にかけつけ、「ふるさと納税により平戸市が非常に活性化している。それぞれの人がふるさとだと思える所にふるさと納税を考えていただき、日本全国が絆で結ばれるよう、これから一緒に努力していきたい」と話されました。その後、ひらどマルシェの会場を視察し、このイベントで初お披露目となった「うちえびラーメン」や「平戸和牛串」などを堪能して、「うまい」と絶賛していただきました。

24日には、都内で平戸産品を取り扱っている飲食店などと共同で、平戸創作メニューによる「ひらどスペシャルビュッフェ」なども行われ、抽選で選ばれた100人の寄附者と絆を深めました。



①②東京湾大感謝祭の会場の様子。③④⑤平戸の特産品の販売。地元業者から出展し、積極的に来場者と交流していました。⑥ひらどスペシャルビュッフェ会場の様子。参加者も平戸の食材を使ったメニューを堪能していました。



平戸の特産品を食べて満面の笑みを浮かべる菅官房長官

ふるさと納税25億円突破！

(平成27年12月末現在・申込額)

昨年度、日本一の寄附額を集めた平戸市。

今年度は、税制改正によって、ふるさと納税がより身近なものになりました。平戸市のふるさと納税は、全国に先駆け、返礼品のカタログポイント制を導入したことや、全国放送など多数のメディアにも取り上げられたことなどが功を奏し、平成27年12月末現在の寄附申込額が、25億円を超えました。また、返礼品についても平戸の特産品を使っており、地場産業の活性化にもつながっています。

平成27年度税制改正のポイント

★ふるさと納税枠が約2倍に

ふるさと納税を行う際、2,000円を除いた全額が控除される限度額である「ふるさと納税枠」が約2倍に拡充されました。

★ワンストップ特例制度

5つの自治体までのふるさと納税は、ある一定の条件を満たせば控除に必要な確定申告が、不要になりました。

以上のようなことから、今までより、ふるさと納税しやすくなりました。

これまでに取り上げられた テレビ番組(全国放送のみ)

【情報番組】

- ・あさチャン
- ・ノンストップ!
- ・ウェークアップ+
- ・ひるおび!
- ・バイキング
- ・ミヤネ屋
- ・新報道2001

【バラエティ】

- ・月曜から夜ふかし
- ・金曜日のスマたちへ
- ・あのニュースで得する人損する人

など



皆さんの思いを “カタチに”

ふるさと納税は、平戸市総合計画の重点プロジェクト「やらんば燦燦プロジェクト」で設定している3つのプロジェクトに活用されています。平成27年度に、ふるさと納税の財源を活用して実施した事業の一部について紹介します。

【輝く人づくりプロジェクト】

「まちづくりの基本は人づくり」とあるという認識のもと、各種活動などを通して、地域のリーダーとなる人材や、さまざまな分野における人材の確保と育成を図り、市民がともに支えあい温かみのあるまちの実現を目指します。

ICT教育推進整備事業 (事業費 79,703千円)



市内の小・中学校にタブレット・液晶TVなどを導入

児童のコメント

大きく画面に表示されるので、すぐ見てノートに写すことができます。図や表などをカラーで見ることができるので、授業がより分かりやすいです。(根獅子小学校6年)

絵本はじめましてブックスタート事業 (事業費 1,000千円)



平成27年中に出生した乳児に絵本を配布

母親のコメント

これをきっかけに親子のふれあう機会も増えるし、絵本も図書館の職員さんに選んでもらえるので、感謝しています。(市内在住30代女性)

【宝を磨き活かすプロジェクト】

本市の個性ある地域の民俗・伝統文化・芸能・祭り、数多くの歴史資産や豊かな自然、都市景観、農林水産品などの豊富な地域資源を、地域の「宝」へと磨きあげ、観光や産業振興に活かすことにより、地域の活性化や交流人口の拡大を目指します。

世界遺産登録推進事業 (事業費 21,109千円)



ツアーでのガイド説明

ポスター作成やツアーの開催などのほか、「教会守」の配置を行いました。これからは世界遺産登録に向けて、歴史や文化を継承する取り組みを進めます。

【ずっと住みたいまち創出プロジェクト】

地場産業の振興や企業誘致に積極的に取り組み、新たな雇用の創出を図るとともに、子育て支援の充実による若年層の人口流出の抑制やU・Iターンの促進を図り、市民が地域に誇りと愛着を持ち、「ずっと住みたい」と思えるまちの創出を目指します。

福祉医療給付事業(児童・生徒) (事業費 13,600千円)



小児科診察風景

市内の小・中学生の医療費に対する助成

これまで未就学児を対象としていた医療費に対する助成を、「子ども福祉医療費」として小学生から中学生まで拡大し、医療費の助成を行っています。

創業支援対策事業 (事業費 155,476千円)



空き店舗活用で創業

新たな産業を生み出すため、空き店舗を活用して事業をはじめる個人・法人を支援しています。

路線バス維持対策事業 (事業費 17,000千円)



ふれあいバス

高齢者の生活基盤の充実を図るため、中・南部地区を運行する路線バスを購入しました。

平戸市のふるさと納税は?

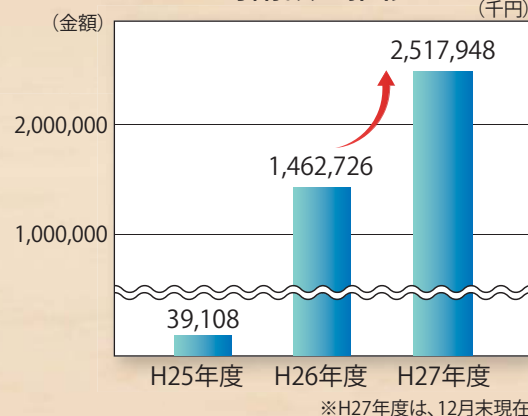
平成20年度から「やらんば!平戸応援寄附金」の名称で、全国の平戸ファンの皆さんから寄附金をいただいています。

平戸市は、全国に先駆けて、カタログポイント制を導入し、平成26年度には、約14億6千万円の寄附をいただき日本一となりました。

今年度は、平成27年12月末で、市のふるさと納税の寄附額(申込額)が、25億円を突破しました。昨年の同時期と比較しても、2倍以上の申し込みがあつています。

今後の見込みとしては、3月末までに、約27億円に迫ることが予想されます。

寄附額の推移



寄附されたお金はどうなっているの?

平戸市の場合、1万円以上寄附したとき、寄附額に応じて、寄附額の40〜50%が返礼品(平戸市の特産品)の品物代として活用されます。そして残りの50〜60%は、市の事業の財源として活用されます。

例えば、1万円を寄附したとき、4千円相当分が返礼品の品物代として使われ、残りの6千円が市の財源となります。

10,000円寄附すると



このように、全国の皆さんから寄附していただいたふるさと納税は、市の貴重な財源として、さまざまな事業に活用されています。

今回紹介した事業以外にもたくさん市の事業に活用されていますので、これから広報紙などでも紹介していきます。